

## 安心安全な東京オリンピックへ

香川県立観音寺第一高等学校 1年 横関 あかり

2013年9月8日、2020年7月24日～8月9日に開催される第32回夏季オリンピックが東京で行われることが決定し、日本中が歓喜した。当時の私はまだ小学生で、そのすごさがよくわかっていなかったが、今考えるととても光栄なことだと思う。

東京オリンピックが開催されるというのはとても喜ばしいことだが、良いことばかりではない。同時に多くの問題点が浮上してくることを忘れてはいけない。代表的なものとしては、次の3つが挙げられる。

- ① 暑さ問題
- ② 費用問題
- ③ テロ問題

これらの問題に対して、現在日本では次のような取り組み・対策が行われている。

- ① 暑さ問題

- ・多様な情報発信
- ・競技会場等の暑さ対策
- ・救急医療体制の整備
- ・暑さ対策に係る技術開発等

- ② 費用問題

費用問題に関しては、リスク要因の見積り方や単価の精査など、見直しを行っている。

- ③ テロ問題

- ・海外からのテロリストの侵入や武器の流入を防ぐ対策の強化
- ・安全に関する情報収集・分析機能の強化
- ・官民一体となったテロ対策の推進
- ・国際連携の強化

特にテロ問題は、多くの日本人が恐れているのではないだろうか。実際に、1972年9月5日、ミュンヘンオリンピック開催中にパレスチナ武装組織により、イスラエルのアスリート11名が殺害されるという事件があった。このような悲劇を起こさないためにも、上に挙げた他に多くの対策に力を入れているという。

ところで、2020年東京オリンピックの3つのコンセプトを知っているだろうか。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会によると、「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」の3つだそうだ。私は、特に「多様性と調和」が大切なのではないかと考えた。人間には、人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治、障害の有無など、数多くの違いがある。オリンピックという場には、そのような多種多様な人たちが集まっている。もちろん、互いの違いを全て受け入れるのは簡単なことではない。そう

いう状況の中で相手を認め合い調和することが、多様な人たちと心をひとつにすることにつながるのではないだろうか。2016年のリオデジャネイロオリンピックでは、史上初の難民選手団が出場した。故郷や同じ境遇の人たちに「希望を与えたい」と真剣に戦う姿は、世界中の人たちに感動を届けた。

“障がいの有無”と聞いて思い浮かぶのは、やはりパラリンピックだろう。毎回オリンピックの後に行われ、障がいを持った多くの選手たちが活躍している。日本では、東京パラリンピックに向けて例えば次のような取り組みをしている。

- ① パラリンピックの認知度向上、ユニバーサルデザインに基づく競技会場整備をはじめとする、過去最高の環境整備を推進
- ② 心のバリアフリー
- ③ ユニバーサルデザインの街づくり

②の心のバリアフリーとは、人々の心にある障壁を除去することである。例えば、障がい者への声のかけ方。一方的に「大丈夫ですか?」とは聞かず、「何かお手伝いすることはございますでしょうか」と声をかけるのが良いのだという。「大丈夫ですか?」と声をかけると、声をかけられた人は“私大丈夫なんだけど・・・”と思う。手助けが必要だと決めつけられることに、抵抗を感じる障がい者も少なくないらしい。相手に選択肢を与える聞き方を心がけることが大切だ。

③のユニバーサルデザインの街づくりには、例えばホテル等の建築物に係る設計標準を改正（トイレ、浴室のバリアフリー化等）、交通バリアフリー基準・ガイドラインを改正（駅等のバリアフリー化等）などがある。

これらの取り組みを見て、私は疑問に思ったことが1つある。①に書いたようにパラリンピックの認知度向上を目指すなら、なぜオリンピックとパラリンピックを分けるのか、ということだ。前にも述べたが、パラリンピックは毎回オリンピックの後に行われている。しかしこれでは、オリンピックに比べてパラリンピックの認知度が低いのも無理はない。なぜなら、オリンピックを楽しみに見ていた人たちは、オリンピックが終わると全て終わりと思ってしまうからだ。熱い戦いの数々を見て完全燃焼した後では、パラリンピックに対する興味も薄くなってしまふのだろう。そこで私は、「オリンピックとパラリンピックを統合する」というのを提案する。そのためにまず、私の考える“オリンピックとパラリンピックを統合する”ことのメリットとデメリットを整理する。

#### ○メリット○

- ① パラリンピックを見る人が増える  
⇒認知度も上がる
- ② 今までオリンピックと別で行ってきた開会式・閉会式にかかる費用を削減できる
- ③ 統合することによってできる新しい競技も増えるのでは・・・?

#### ●デメリット●

- ①障がい者の身に起こる危険が多くなる

## ②会場などの設備をパラリンピックに合わせる必要がある

まず、メリットの1つ目。これが1番大きなメリットと言えるだろう。パラリンピックの認知度が上がり、興味を持つ人も増えるのではないだろうか。

メリットの2つ目。オリンピックとパラリンピックを統合すれば、開会式・閉会式にかかる費用も削減できる。ここで削減したお金で、他の必要な設備を設けることもできるのではないだろうか。

メリットの3つ目。統合すれば、統合したからこそできる新たな取り組みも出てくるのではないだろうか。例えば、水泳や陸上でオリンピック（オリンピック選手）とパラリンピアン（パラリンピック選手）混合のチームで出場するリレー種目をつくる、テニス・卓球・柔道などで、オリンピックとパラリンピアン混合の団体戦を行う、などである。もしこのようなことが実現できれば、今までとは違った楽しみ方ができると思う。

次に、デメリットの1つ目。2つの大会を1つにすると、それだけ会場に集まる人が増える。選手はもちろんのこと、観客や関係者もだ。人が増えるということは、それだけ危険も増えるということ。体の不自由なパラリンピアンにとって、危険が増えるというのは怖いことだと思う。では、会場全体をユニバーサルデザインにしてはどうだろうか。階段をスロープにする、手すりを付ける、など。特に人が多い場所では、障がい者専用の通路をつくるのも良いと思う。

デメリットの2つ目。デメリットの1つ目でも述べたように、オリンピックとパラリンピックを統合するとやはり障がい者に合わせたデザインにすることが重要になってくる。そうするとそれだけ費用はかかるが、メリットの②で述べたように、開会式・閉会式で削減したお金をそこに当てたら良いのではないかと考える。

もしオリンピックとパラリンピックの統合が実現すれば、オリンピックはより一層活気のあるものになるのではないかと思う。東京オリンピックまであと3年。東京オリンピックでの実現は難しいかもしれない。しかし、いつか必ず実現してほしいと思う。東京オリンピックで実現できなくても、東京オリンピックにより多様な人たちに合わせたデザインを取り入れることは可能だと思う。

経済面など、現実的な問題もまだ多々あるが、やはり大切にしたいのは東京オリンピックを楽しみに思う気持ちである。56年ぶりの東京オリンピック。多種多様な人たちがお互いを尊重し、誰もが安心してオリンピックに熱中できるような大会になってほしいと思う。

---

出典

暑さ対策・テロ対策・東京パラリンピックに向けた取り組みについて  
・・・<http://www.kantei.go.jp/jp/headline/tokyo2020/torikumi.html>

ミュンヘンオリンピック事件について・・・[ja.m.wikipedia.org](http://ja.m.wikipedia.org)

難民選手団について・・・[japanforunhcr.org](http://japanforunhcr.org)

費用問題見直しについて・・・<https://tokyo2020.jp/jp/>

心のバリアフリーについて・・・[nhk.or.jp](http://nhk.or.jp)